

議 事 録

委員会名	平成28年度第4回 足立区男女共同参画推進委員会
日 時	平成28年9月23日(金) 午後6時30分～8時30分
会 場	L・ソフィア 第2学習室
出欠状況	委員現在数13名 出席者数7名
出席者	<p>【委員】</p> <p>石阪督規委員長、乾雅栄委員、鈴木房世委員、西村真海委員、中村稲子委員、遠藤美代子委員、大竹恵美子委員、坂田卓也委員</p> <p>【事務局】</p> <p>下河邊区民参画推進課長、里見係長、福本主事</p> <p>【傍聴者】なし</p>
会議次第	別紙のとおり
配布資料	<p>1 平成28年度第3回男女共同参画推進委員会の要点</p> <p>2 平成28年度男女共同参画推進委員会日程表(追加版)</p> <p>3 区民対象意識調査設問(案)および区民意識調査に関するご意見</p> <p>4 区内大学生対象意識調査設問(案)</p> <p>5 平成27年度区政モニターアンケート報告書</p> <p>【ヒアリング資料】</p> <p>1 未来へつなぐあだちプロジェクト</p> <p>2 子どもの健康・生活実態調査報告書(概要版)</p>
発信者(敬称略)	議 事 内 容
石阪委員長	<p>1. 定足数の確認、前回(8月29日)推進委員会の振り返り等</p> <p>・男女共同参画推進委員会夜の部、定足数は達しているとのこと。では資料1、前回の振り返りであるが、課長から。</p>
下河邊課長	<p>・こんばんは。区民参画推進課長の下河邊です。資料1をご覧ください。前回は、「第7次足立区男女共同参画行動計画」についてご意見を頂戴した。「計画骨子」については、基本目標のレベル差は若干あるが、とくに基本目標3は、DVの計画として目出しするの必要を考えると良いのではないかと、ご了承をいただいた。(資料の不足があったため、資料1についての説明を一時中断)</p>
石阪委員長	<p>2. 男女共同参画推進に係る庁内事業進捗状況等に関する担当課ヒアリング</p> <p>・それでは次第の2つ目、担当課ヒアリングだが、子どもの貧困対策担当課長・岩松課長にお越しいただいた。前回の会議の中で、貧困対策について伺いたいということと、ご意見やご質問もあると思うので、まずは課長から。ちょうど1年経って、ある程度の課題や成果が出てきたと思うが、そのあたりをご紹介いただき、あとはみなさんからの質疑応答の時間を取りたいと思う。</p>
岩松課長	<p>・子どもの貧困対策担当課長の岩松です。昨年8月末、この席に呼んでいただき、ちょうど計画を策定しているときだった。みなさまに本日お配りしている概要版、「未来へつなぐあだちプロジェクト」は、みなさまのご意見を聞きながら作成した子どもの貧困対策の計画をコンパクトにしたものになっている。昨年9月くらいに案を作り上げ、今年2月に策定した。柱立てを3本、「教育・学び」「健康・生活」「推進体制の構築」ということで、これまでいろいろな部署にまたがっていた施策を貧困対策ということでひとまとめにし、全庁的に横の繋がりというか横串を刺す施策として進めて来た。早速今年度、ASMAP事業といって、これは寄り添い支援、妊娠届を受け取ったとき</p>

にその方にアンケートを取るが、お母さんが赤ちゃんを産んだ後に、子育てができるか、心配なことはないか、寄り添い支援をしてきた。概要版の後ろを見ていただくと、子どもの貧困対策の計画に括った事業、個別の事業が出ている。実際には82事業113項目あるので、こちらにあるのは抜粋となっている。今、話した妊娠期からというのは、健康・生活の中の施策1、親子に対する養育支援のところに出てくる。もしかすると昨年も説明したかもしれないが、子どもの貧困対策、貧困というのは経済的な問題だけではないということから教育や福祉、衛生などさまざまな分野からの対策、もともと事業の目的があるわけだが、そこに子どもの貧困対策にもなるのではないかという視点を加えて、この施策を集めている。

・「教育・学び」のところは、主に基礎学力の定着や子どもが学び続けるための環境整備、これは経済的な支援、就学援助や奨学金などもそうだが、精神的な面でのサポート、相談事業やスクールソーシャルワーカーの派遣などを括ってある。この1年やってきて、最も重要だと思うのが、子どもの居場所づくりのところである。竹ノ塚周辺の北部地域と綾瀬付近の東部地域、中部地域に、学習支援を兼ねた子どもの居場所を3箇所、区で整備してきた。ここは経済的に厳しい子どもはもちろんだが、自宅に学習するような環境がない、場所がない、兄弟が多くてなかなか勉強に集中できないといった子どもを集め、大学生のボランティアがマンツーマンで勉強を教えている。ただ学習支援だけでなく、居場所も兼ねているので、その“居場所”のところは1年間やってきて重要だなあと感じている。というのは、大学生と接して勉強を教えていただくことで、勉強以外の部分でも相談に乗ってもらったり、例えば高校受験をするときにも、内申書など、勉強以外にもいろんなことを教えてもらわないといけない、いろんな知識が必要なのだが、そういったところを大学生から教えてもらって、自分も大学生になりたいという夢を抱いたりする。この3月に中学3年生の卒業生を出したが、全員、高校に進学することができた。入った当時は、勉強の成績もあまり良くなく、偏差値も低い状態であったと聞いているが、勉強だけでなく、モチベーションを上げることも、大学生と関わることで変わってきて勉強の意欲が出たと聞いている。実際にボランティアとして学習支援に携わった方の話を聞いたが、勉強を教えるだけでなく、接することで自分も勉強になるし、子どもたちがそれ以外のことで自分たちに聞いてくれることがたくさんある。精神面で支えになったのではないかと、という感想をいただいている。こういった意味で、行政が整備できる居場所は今、3箇所だが、地域の中でも学習支援や子ども食堂というような取り組みが、だいぶ広がってきた。これがこの1年で大きく変わってきたことだと思っている。団体が場所を借りて、そこで学習会や子ども食堂をするのはもちろんだが、地域の方にも子どもの見守りや声かけをお願いしたいということで、地域の方々に説明をしているところである。

・「健康・生活」面では、生まれる前からの支援というものが重要であるが、妊婦の段階から子育てがきちんとできるかどうかを、早め早めにキャッチして、もしリスクがあるのであれば、寄り添って支援をしていくことを始めている。それは先ほど冒頭で申し上げた、ASMAP事業である。リスクがあるなと感じたときには、お母さんと一緒に出産までこんなことをしていきましょうか、栄養面で食育のイベントに参加してみましましょうか、少し運動して体力をつけていきましょうか、というところから、お母さんとしての自覚を促すような精神面での支援もしている。赤ちゃんが生まれた後も、1回妊娠届を受け取るだけでなく、例えば乳児健診に来たときにそのお母さんの様子はどうか、そのとき新たに心配事があるかって子育てができない状況になっていないだろうか、節目節目でリスクがないかどうかキャッチするような仕組みを始めている。もし心配だな、と思うと

きは保健師が訪問に行ったり、相談に乗ったりするが、子ども家庭部の事業と連携しており、「子ども支援センターげんき」で、虐待防止、養育困難のための事業を行っているが、そういったところにつなげるような仕組みをすでにスタートしている。妊娠届のアンケート項目から数値化していくわけだが、思った以上にリスクの高い判定のお母さんたちの割合が高く出ていると聞いている。1年を通してみないとどのような結果が出るかわからないが、今のところはそのような傾向がある。

・ひとり親の支援については、今年度からひとり親家庭のための相談員を配置した。交流や学びの場であるひとり親サロン「豆の木」というものを7月からスタートした。月2回なので、もう何回か開催しているが、その都度趣向を凝らしたテーマでみなさんにお集まりいただき、喜んでいただいている。

・「推進体制の構築」というところでは、昨年度説明できたかわからないが、「つなぐ」シートというものを全庁的に使用している。例えば税金の分納のご相談に来たときに、税金だけの問題なのか、失業したのではないか、お母さんの精神状態が不安定なのではないか、それから資格を取りたいが、どこに相談したらよいかわからない等、ただ窓口に来てその用件だけで終わらせるのではなく、そこから背後に隠れている心配事、困り事をキャッチして、ご本人同意の下、次の支援先につなぐことをスタートしている。庁内の連携だけでなく、ライフライン事業者、電気やガスといったところにもそのシートを活用していただき、もし検針時や訪問の際に、この家庭は様子を変だな、というときには「つなぐ」シートを使って、区へ連絡がほしいということで、今みなさんと話をしながら進めている。こんなときに連絡ください、というのを客観的に見てわかるように、こんな状態のときは、というマニュアルをきちんと作り、検針に出かける方に1冊持ってもらえるような形で、担当課で広げている最中である。

・報道等でもみなさんご存知かと思うが「子どもの健康・生活実態調査」を、昨年実施した。春先に1回モデル校で実施し、11月に全校展開して実施した。足立区の小学校1年生のいる全世帯5,300世帯に学校を通じて配布し回収したところ、8割くらいの回収率を得ることができた。その中で、これまで虫歯の本数は一人当たりどれくらいあるのか等の統計がなかったが、そういった健康状態の実態が明らかになった。もうひとつは、貧困対策元年であったため、経済状況とリンクさせ、結果を分析している。それがもう1枚みなさまに配布している「子どもの健康・生活実態調査」の概要版になる。裏面の子どもの健康や生活の実態と生活困難の関連性だが、経済状況と併せて分析したものを掲載してある。いくつかの定義に当てはめ、この調査上だけの“生活困難”という世帯を抽出したところ、24.8%がここに該当した。その下の真ん中の部分になるが、非生活困難世帯と生活困難世帯を食習慣や運動習慣等、両方で比較している。見ていただくと、虫歯の本数で大きく違いが出ているのがわかると思う。生活困難世帯では、5本以上虫歯があると答えた世帯は2割くらいに上ってしまう。健康と経済状況というものは、少なからず関連している、影響があるということがここでわかった。

・その下のところ、丸がたくさん並んだ少し見づらい図だが、子どもの逆境を乗り越える力が、生活困難とどんな風に関わりがあるかを見た図である。わかりにくいのが、簡単に申し上げると子どもの自己肯定感の低さは、どんなものが影響しているか。生活困難が影響しているというのが15%、それをさらに取り出して詳しく分析したのが、丸のたくさんある図である。生活困難としか理由が立たない人は6%、それ以外の94%はその他にも間接的な影響があったということがこの分析からわかった。例えば朝食の欠食であったり、保護者の抑うつ傾向であったり、運動習慣、読書習慣

であったりといったものが経済状況とともに間接的な影響として、逆境を乗り越える力の低さにつながっていることがわかった。

・今後の子どもの貧困対策の展開にもつながるが、ここでわかったことは、区で変えられる要因があったということ。ご家庭の経済状況を区で変えるというのは難しく、国の生活保護制度や東京都や国の手当等を増額するというのであれば影響がだいぶ大きいと思うが、なかなかそうはいかないので、運動習慣や読書習慣をつけてもらう、といったところは区で変えられるものがあるのではないかと、全庁で共有したところである。これを来年度以降の施策に反映させられないかを各部署で検討しているところである。

・その右側を見ていただくと、これもこの調査からわかった2点目である。「保護者に相談相手がいることが大切です」とあるが、思いやりや気づかいなど心の発達が心配だという子どもの割合を生活困難と非生活困難で比較したものである。相談相手がない人よりも、相談相手がいる人のほうが、こういった懸念される子どもの割合が低いというのが、(生活困難と非生活困難)両方で同じ傾向だが、非生活困難と生活困難で比べたとき、生活困難であっても相談相手がいると、そういった影響は少ないということが、ここから見ておわかりいただけると思う。こちら調査からわかったことなので、まずは保護者を子どもも含め孤立させない、これも来年度の施策に取り入れられないかということで、全庁で検討しているところである。来年度の予算まで放っておくということではなく、すでに取り入れているものもある。先ほど、ひとり親家庭のサロンの話をしたが、すでに7月から始まっている。その中でお母さんたちを孤立させない、交流の場であったり身近な相談相手であったり、そのようなところをすでに強化している。それからASMAP事業、妊娠期からの寄り添い支援という説明をしたが、そこもこの結果を受けて、さらにお母さまたちの身近な相談相手となれるよう、相談体制を強化しているところである。これがこれまで子どもの貧困対策を進めてきて、また調査を行った上で見えてきたことを活かしているというものである。どれもすぐに結果が出るものばかりではないので、指標を24掲げているが、1年や2年では、この数字は変わってこないと考えている。そのお子さんが大人になって子育てをするときに、きちんと自立して子育てができていくかどうか、そこまで見ないと子どもの貧困対策が効果が出ているかどうかというのはわからないのではないかなと思うが、そうは言ってもそこまで放っておくわけにはいけないので節目節目で評価をしていきたいと思っており、来年度から子どもの貧困対策の評価をする予定で準備を進めている。以上である。

石阪委員長

・では、みなさんからご質問やご意見を伺いたい。結構盛りだくさんだが、個人的には、今回かなり熱心に調査をやっていただいていると思う。とくに健康・生活のASMAP、これは妊婦のときから出産後まで一貫して見ていこうというのが特徴的なのと、アンケートを行ってリスクの高い人を分類し、そこに重点的に行くのですか？

岩松課長

・はい、A、B、C、Dのランク分けをしている。Dがいちばん深刻な状況であるが、複数回訪問をするようにしている。

石阪委員長

・これは、かなり熱心にやっているなど。他の自治体は、めったにそこまでやっているところはない。リスク分析をして、ひょっとすると虐待のおそれがあるとか貧困のおそれがあるとか、リスクの高いものについては頻繁に行きコミュニケーションを取るという約束をされている。貧困とは結局、どうしていいかわからない、と孤立化するところから(貧困に)繋がっているという話だったので、そのあたりをわかって施策を進めているので、いろいろと孤立しないような仕掛けができ

	<p>ていると思うが、乾委員、（ご意見は）どうか？</p>
乾委員	<p>・子どもの貧困を考えたときに、生まれる前から取り組まなければと思っていた。それで先日、青少年問題協議会に行ったときに、ASMAP（について）だが、10人妊婦がいたら、そのうちの6人に支援が必要だと聞き、ひどく驚いた。これは大変と。結構低年齢であったり、経済的に困窮家庭のリスクが大きいということなので、望まない妊娠はしないとか、義務教育の中での性教育をきちんと、性教育というとても誤解されるが、きちんと考えて子どもを産むということはどういうことなのかということ、義務教育のうちにしなければと思う。妊娠の低年齢化、小学生での妊娠も増えていると聞いているので、そういうところに生まれたお子さんはどうなのか、先々を考えて、きちんと義務教育中に（指導）していただきたいと思う。</p>
石阪委員長	<p>・これが貧困の連鎖につながるのですね。低年齢で出産してしまい、またその子も貧困になっていく。そこを切っていかなければならない。</p>
中川副委員長	<p>・あなたがとても大切だということを、教育の中に入れていく、あなたを尊重するという、そのあたりを主張していただきたいと思う。</p>
乾委員	<p>・命の重さ、そういう教育ですよ。</p>
石阪委員長	<p>・小学校のPTAから、ご意見はどうか？</p>
鈴木委員	<p>・経験の中で、上の子を出産して健診に行ったときにアンケートを取っていただき、ちょっと問題があるというか、やりづらいところがあると書いた記憶があり、それからすぐに電話があった。どうですか？大丈夫ですか？と1ヵ月に1回くらい。</p>
石阪委員長	<p>・定期的な電話ではなく、たぶんそれを書いたから。</p>
鈴木委員	<p>・様子を見るために1ヵ月に1回くらい、それが13年くらい前。その時、子どもは生まれて育てている途中だったが、今度はお腹にいるときからやったださるのだと、感心していたところである。自分の息子も虫歯があるとお便りをもらってきて、夏休み中に（歯科に）行かねばと思っていたが、どうしても息子と私の都合が合わずに行けていない。子どもに興味があつて時間を割くことができないということは貧困なのか、興味なくなっているのか、私もストレスのラインだからドキッとしたのだが。</p>
石阪委員長	<p>・虫歯の治療に行かないというのは、子どもと関わりがなく気づかないというタイプの人と、お金がかかるから行けないという人と、わかっているがいけないという人と。</p> <p>・あと、なんとしても治療させなければと、親子の都合を合わせて健康管理できているか否かというのを、ずるずるしていってしまうと、私も行ってないなど。それも紙一重だなどと思えて。このまま、いいやいいやとなってしまうと、だんだん見ないふりではないが、それに慣れてしまうのもよくないなど。</p>
石阪委員長	<p>・ちなみに学校の現場では、虫歯が多かったり、治療が遅かったりという子に対し、何か特別な支援をしているのか？</p>
岩松課長	<p>・学校では、勧奨はしているようである。そこに今回は、未就学児の部分についても勧奨をするようになった。</p>
石阪委員長	<p>・ただ（虫歯のある子どもの）数だけを把握しても意味がないので。では、いっこうに虫歯が治らない子に何か問題があるとすれば、と今は未就学児の部分をやっているのですか？</p>
岩松課長	<p>・未就学児の部分、子どもの貧困対策とともに力を入れ始めたというところである。</p>
鈴木委員	<p>・やはり二度三度手紙が来ると、さすがに行かなければと。またそろそろ（お便りが）来てしまう。</p>

岩松課長	・仕事の都合があったりするので、私たちもなぜ歯科に連れて行かないのかということまでは、今回の調査では調べていなかった。そこまでわかるといいなと。本当に健康に感心がないのか、忙しくて行けないのか、たぶんいろいろ事情があると思うので。
鈴木委員	・息子も友だちと遊びたくて、「せっかく約束を取ってきているのに、前もって言っておいてくれないとぼくも困る」と言われると、そうだよねと。
石阪委員長	・治療には日数がかかりますものね。1回だけでなく、定期的に行かねばならないとなると。
中川副委員長	・治療費は区から出るのでよね？
岩松課長	・そうです。治療費はかからない。小学校、中学校は医療費は全員。
石阪委員長	・6歳まで出る？
岩松課長	・中学3年生までですね。
石阪委員長	・15歳まで？
中川副委員長	・持っていても、お金は払うのですよね？
鈴木委員	・いえ、医療証を出せば大丈夫。ただ区外だとそういう仕組みになっているかもしれないが。
岩松課長	・区内であれば。
石阪委員長	・入院も？ 食費は払わなければならない。医療費も中学校3年生まで届け出なしで？ それはすごい税金の使い方ですね。
西村委員	・なので中3になると、もう（医療費無料が）終わりなので、急に病院に通って湿布をもらってきたり、というのが現実。
岩松課長	・情報の貧困の方は、そういうことすらも知らないかもしれない。
西村委員	・なにせコミュニケーションがないので、知らない。
岩松課長	・どうしてなのか、というところを次のステップで、なぜ虫歯があっても未処置のままなのか、というのを調べたいと思っている。
石阪委員長	・私が住んでいた自治体は、医療費無料は4～6歳くらいまでですね。
岩松課長	・そうですか。足立区も段階を踏んで、であるが。
石阪委員長	・そこまでいったのですね。18歳まで、というところもあるようだが。これからは、そういうことでインセンティブになって、子どもがたくさん入ってくる可能性がある。例えば隣の区に住むより足立区に住む方が、15歳まで（医療費が）タダならこちらに住もうか、と。あとは、みなさん、どうか？ 西村委員、いかがか？ かなり一生懸命やっていますよね。
西村委員	・一生懸命やっている。やはり保護者の意識が低いので、そこが我々の悩みのところで。
石阪委員長	・例えば、保護者に対する支援というのがありますね。だが、なかなか保護者の意識が変わらないし、そこをなんとかしない限りなかなか難しいところですね。
西村委員	・区役所も悩むところだと思うが。
岩松課長	・なので、直接子どもに届くような支援を考えている。
西村委員	・子どもに（意識が）向いている人といない人の差が激し過ぎて。やってくれる方はもちろんやってくれるし、やってくれない方を振り向かせるというのは、我々PTAもそうであるが、虫歯でも真っ黒な子がいるのに、なぜ歯科に行かないのか、そうなるまでにどうして手を打たなかったのかと思う子どもが、小学校には結構いる。中学校に行くと、そうでもないようだが。
岩松課長	・保健師が聞いてくれたことがあるが、乳歯なので、そのうち抜けるんでしょう？と。
西村委員	・乳歯だからいいだろうと大人が言うんですね。

岩松課長	・そんなふうに考えていらっしゃる親御さんも....。
西村委員	・食生活もそうで、給食を食べるまで帰るな、と言っているようで。給食の時間になると一生懸命食べている子どもたちがいっぱいいる。
石阪委員長	・これを見ると、朝ごはんはみんな食べていますね。もっと食べていないかと。
岩松課長	・朝ごはんの中身までは...。そこがまた...。そういう項目もあるのだが、ここには特出しはしていないが、やはり中身が重要かなと思っている。
石阪委員長	・朝食を見たら、9割以上の人が食べているので。
鈴木委員	・それならまだいいが、スナックだけとか。学校単位で進んでいますよね。ヨーグルトだけで朝ごはんと思っている人もいるし、スナック菓子のようなチョコレートをはさんだウエハースのようなものを食べて、それが朝ごはんだと思っている子もいるので。
石阪委員長	・逆にいうと、きちんと昔からある朝ごはんを食べている人はどれくらいいるのだろう？
西村委員	・食卓を囲んで、というのはまずないと思いますね。お父さんいないし、お母さんも....。
石阪委員長	・やはり中身を見たいですね。おそらく数で見ると、そんなに差はないと見えなくもないが、おそらく朝食と言ったときのメニューというのがかなり....。
岩松課長	・そうですね。
大竹委員	・小学生にはいないが、中学生で近くにあったもので。コンビニで買ったおにぎりを食べながら登校してくる。
石阪委員長	・途中で買っているんですね。
西村委員	・お金が置いてあるということがよくあるんですね。
岩松課長	・この部分は、衛生部や教育委員会も含め、横のつながりで食育の計画を作っているが、親が用意してくれないのであれば、自分できちんとご飯が作れるようにとか、あとは選べるように。コンビニにでも構わないのだが、野菜のものを1品選ぼうかという知識というのだろうか、そういったところを中学校のうちに身につけてもらおうということで、今、そんな取組みも検討しているところである。
西村委員	・中1でも、自分でお弁当を作っている子もいますね。お母さんが起きてくれないので。
中川副委員長	・えらいですね。中学校でかつお弁当コンクールというのをやっていたことがある。
西村委員	・ありますね。足立区の給食メニュー....。
下河邊課長	・足立区の給食メニューコンテストのほうですかね。
岩松課長	・学校独自の取組みで、「お弁当の日」を設けているところもある。
石阪委員長	・いいですね、自分で作るというのはね。中学校に入ったら、自分でお弁当作る日があっても。ただ、それはやはり難しい？
岩松課長	・会議の中に栄養士の先生がいらっしゃったが、食材が用意できないのではないかと心配したが、意外に大丈夫だったと聞いている。いろいろ考えたりして作ってきたと言っていた。
石阪委員長	・他は、いかがか？ 何かあれば。
坂田委員	・先生と一緒に、見ていると非常に多面的にやっておられるので、素晴らしいと思う。前回も話があったが、どちらかという横串的な役割ですね。全庁を横串でいろいろなことをやられていると感じる。ここにもいろいろ書いてあるが、やはり足りないところがあると思うんですね。その中でNPO等といろいろと環境を作っていく、そこでこういうふうにもやってみようとか、具体例みたいなものはあるのか？

岩松課長	・子ども食堂や学習支援もそうだが、NPOのみなさんと意見交換会を、定期的とまではいかないが行っている。子どもと実際に接してみてどうなのか、とかどんな支援が区として効果的なのか、まるまる行政が関わってしまうと、税金なのだから対象者をこうやって決めて、となってしまうので、そうではなく地域の実情に合った活動だが、例えば場所代などで支援できることはないか、あとは子ども食堂をやるときに、食材の寄付の話や寄付金の話が私たちのところには来ているので、私たちが間に入ってそこをうまくマッチングするようなことを始めた。
坂田委員	・外の力というか、省庁だけでなく外の力というのをうまく活用するべきかなと。たまたまであるが、私、日本ファイナンシャルプランナー協会ですらと活動させてもらっているが、つい2カ月前くらいの、会員の会報誌に、“子どもの貧困”の記事が6～7ページ出ていた。子どもの貧困に対して、FPができることって何なのだろうというような記事だったが、いろいろ書いてあって、本当は持って来ようと思ったのだが忘れてしまったので…。そこにもいろいろ書いてあったのが、やはりひとり親の支援が非常に重要で、ひとり親のライフプランというのを考えてあげて、それで実際にプランを考えると、就職しようとか、こういう資格を取ろうとかモチベーションがあがるので、そういったことがファイナンシャルプランナーとしては、できるのではないかと書いてあった。FP協会は新宿区や他区等とコラボでやっているが、そういったことをやりながらでもいいし、ライフプランセミナーであったり、ライフプランの個別相談であったり、そういったものを増やしていくのはどうかと思う。
岩松課長	・ありがとうございます。ひとり親家庭のサロンの中では、回ごとにテーマを決めているが、例えば資格取得のためにどんなことが考えられるか、どんなことがみなさんにできるのかをテーマにした回であるとか、お母さんのリフレッシュのためのヨガとか、子どもとちょっと体験してもらおうような回だとか、そういった中で企業と連携できるとおもしろいかなと思う。
坂田委員	・その辺は外の力を使って、盛り上げていけたらと。
岩松課長	・ありがとうございます。
石阪委員長	・足立区というと、行政色が強いんですね、この貧困対策は。一生懸命やっていますという。第一段階ではそれは重要なのだが、次のステップに入ったときには、むしろいろいろな民間団体であるとか、企業でもよいのだが、そういう団体を活用して、その人たちにノウハウとか継承していくというようなことも。
坂田委員	・やりますよ。
石阪委員長	・やりましょうよとか、お願いしますと…。
岩松課長	・ありがとうございます。
坂田委員	・新宿区でFP協会が、という話が出たが、新宿区はいろいろな方がいる。FP協会の隣りが、LGBTの団体であったり、多様な団体が集まって、新宿区の人たちの悩みを無料で相談を受けたり、そういったことはよくやっているのので、ぜひ活用していただけたらと。
岩松課長	・ありがとうございます。
石阪委員長	・他にどうか？
池上委員	・荒川区民ですが…。荒川区も中学生まで医療費は無料になっている。先ほどの、中3になると(病院に)駆け込みで…というのが、最近経験したのが、接骨院にマッサージに通っていると、小学生くらいの子がちょっと転んだとか、ちょっと負傷したとかで来ている。医療費がかからないので、それはちょっとどうなのか、と。老人の医療費がかさむのと同じで…。

石阪委員長 池上委員	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉の課題でもあって、サービスを充実させると、逆にその分、病院に行くようになるというね。 ・貧困の話の中で、訪問先の社員さんのお母さんが、確か足立区に住む方で生活保護を受けている。同居します、と言って生活保護などの相談に2人で行くようだが、理解できないようだ。いざこちらが発信しても、それがわからない。知りたくて行っているが、理解できない。逆にそんなことは聞く耳を持たない。学校でもそういった保護者の方はいらっしゃると思うので、すごく大変だなと。そういう人たちをどう救い上げていくか。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に役所とは、申請主義なんですよ。自分から申請しないとサービスは受けられない。基本は、ただそれを待っていると、結局なかなか来ない。だから働きかけて、こういうサービスがありますよと教えてあげないとなかなか難しいのかなと。サービスをするサービス、申請に行くサービスみたいな、そういうのを考えていかないといけない。よろしいでしょうか。中村委員、どうか？
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・子育ても遠い話なのだが、なんか子どもは人に育ててもらっているような気がしてしまって、私には答えようがないですね。貧困といっても、昔はみんな貧困だった。お父さんしか働いていないし。みんな貧しいんですよ。裕福な人は裕福だったが、貧しいのは全員貧しい。今更貧困といわれても、どこまでが貧困か、どういう人が貧困なのかがわからない。子どもが貧困だろうと思ったら、住区センターの玄関のところでカードゲームをやったり。あれだって結構高いでしょう？ それをやりながら貧困といわれても、買えない人もいるし、と思うし。どこから線引きができるか。
石阪委員長 岩松課長	<ul style="list-style-type: none"> ・一応、足立区は貧困世帯の定義がありましたよね。 ・そうですね。調査の中では（ある）。これは調査上の定義なので、実際はすべての子どもが対象で、その中に孤立している子だとか、経済的に厳しい子もそうだが、対象は“みんな”である。予防、貧困に陥らないようにという予防策の方が、区としては力を入れているところである。
石阪委員長 岩松課長	<ul style="list-style-type: none"> ・貧困というと、アフリカの飢餓みたいなイメージになっている。 ・そうですね。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・おそらく日本で今、問題になっているのは相対的貧困で、いわゆるゲームをやっていたりとか、スマホを使ったりとか、見た目はよくわからないケースも多い。
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・仕分けなどできないが、子どもの生活態度が悪くなると、家庭生活が貧困かな、としか思えない。結局、お父さんとお母さんがいても、お父さんは朝早くから（仕事に）行ってしまったり、お母さんはパートに行ってしまうし、子どもがひとりになってしまい、食べるものも満足に食べられない。それを貧困というかといえば、お父さんとお母さんは働いてお金を稼いで来るから貧困とはいえない。どういうふうにするかは家庭の問題であって。大人の生活困窮者と同じように見分けるのか、子どもだけを見て...
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・おそらく足立区は、大人に支援をすると、例えばだが、大人がそれを自分のために使ってしまったりする。子どもになかなか行かない。だからあえて、子どもに直接届くような支援を考えていらっしゃるのですね。
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・昔からありますよね、中学生の、申請すると修学旅行も入学の制服も（支援される制度が）ありましたよね。足立区に引っ越して来てから、こういうものがありますよ、お母さん、と言われた。
石阪委員長 岩松課長	<ul style="list-style-type: none"> ・就学援助ですね。40%くらいいますよね。 ・中学校は40%である。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・全国でもベスト10に入るくらいの。
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・もらっていない人が少ないくらい。子どもが、何のことかわからないけど、お母さんこれどうす

	<p>る？と、あとで言いに来た。そういう支援をしてくれるということなのだが、生活困窮者ではないから、お世話にならなくてもいいのでは、と言ったのだが。でもやはりすれすれのところで、お母さんたちは、いくらでもお金が入るほうがいいから、結局そういう申請をしてしまうんですね。先生にも勧められる。</p>
石阪委員長	<p>・その線引きが難しく、本当に支援が必要な人と、申請して儲けてやろうという人とは、外から見るとわからない。だから行政の場合は、一定の線を引かないとたぶんきりがなくなるので、その辺がなかなか難しい。</p>
中村委員	<p>・だから私も考え込んでしまう。昔は、貧困は全部貧困だと思っていたし。</p>
石阪委員長	<p>・では時間も来たので、もし何か最後にあれば、それでは岩松課長、どうもありがとうございました。これは大事な取組みなので、また引き続きいろいろな成果をお聞かせいただければと。</p>
中川副委員長	<p>・今の一番の課題は何か？</p>
岩松課長	<p>・地域のみなさまに、“貧困”ということを理解してもらうのが今、難しいなと感じる。ただ、すべての子どもの未来を明るくするものなのだとこのところから、少しみなさまにご理解いただけたらと思っている。あとは子どもの居場所、声かけというところで、見えづらいのだが、みんなで孤立させないような声かけをしていただけると、少しでもそういうのがなくなるのではないかと思います。</p>
石阪委員長	<p>・今まで親や家庭がやっていたことを自治体が代わってやる、ということをやらなければ、なかなか貧困はなくなる。今までは親をあてにしていた面もあるが、今、足立区が舵を切ったのが、子どもに直接支援をしていこう、居場所がないなら自分たちで作ろうという方向に来ている。逆にそこまで追い詰められているということでもあるので、みなさんが協力してやっていかなければ、なかなか進んで行かない事業なので、先ほど坂田委員からもあったが、いろいろな人を巻き込んで対策をやっていく。ありがとうございました。</p>
岩松課長	<p>・ありがとうございました。</p>
石阪委員長	<p>・では続いて、戻りましょうか。資料1、2をお配りいただいたかと。では、これの説明をお願いしたい。</p>
下河邊課長	<p>・資料がお手元に回らず、失礼いたしました。戻りまして、資料1をご覧ください。繰り返しとなるが、今回は「第7次足立区男女共同参画行動計画」についてご審議いただいた。「計画骨子」については、事務局案でご了承いただいたということで、基本目標などはDVや表現の件でご意見をいただいたが、DVの計画（足立区配偶者暴力対策基本計画）のこともあったりということでご了承いただいた。「取り組みの方向性」については、基本目標1の部分が少し膨らんでいるが、第6次の行動計画を踏襲するというので、むしろ望ましいとのご意見を頂戴した。</p> <p>・「意識調査」については、後日送付をするということで、お送りしているものである。この中で「意識調査」について、どういった項目を入れたほうがよいかということについて、ご意見を頂戴した。大学生の意識調査では、過去にDVがあったか、あとは就業意識、専業主婦になりたいという女子学生が多いと聞くがどうか、結婚観、子育て観を聞いてみるのもよいのではないかとのご意見をいただいた。</p> <p>・「年次報告書」については、どんな課題を抽出するかということで、ワーク・ライフ・バランス、審議会への女性の参画促進、区職員の管理職への女性の登用、DV等について、今年の課題としましょうというようなお話をいただいている。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒアリングを実施する所管課ということで、本日、子どもの貧困対策担当課に来ていただいたがこちらと、人事課、東部福祉課、こちらはDVに関するもの、あとは教育指導課というところでヒアリングを少し絞ってやりましょうとご意見をいただいた。簡単だが、以上である。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・何かこの資料1については、よろしいか？ 前回、こういう議論をした、ということである。それでは、先ほどの続きになる。区民参画推進課からだが、どうするか？
下河邊課長	<ul style="list-style-type: none"> ・実は今日は「意識調査」を少し詰めていただくのが先かと思うので、私どもはいつでも、ご質問いただければお答えできるので、人事課の、女性の管理職への登用、といったところで一緒にご質問を受けるといった形にさせていただければと思う。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・では人事課が来られたときに、補足いただくような形で。それでは、今日のメインの議題になる。3番目、行動計画基礎資料「区民・大学生対象意識調査」の設問について。お手元の資料3、ホチキスで留めてある2つの案があるが、「区民」の方は世代、性別がバラバラの区民を対象としたもので、「大学生」の方はターゲットを大学生に絞って調査をする、この2つの資料についてみなさんからご意見をいただきたい。まず、「区民意識調査」であるが、これは先般みなさんにお送りいただき、すでに何名かの方からご意見をいただいている。順に見ていき、例えばここはこういう設問にした方がよいのではないかとか、あるいはこういう設問をここに加えてみたらいいのではないかとというようなご意見があれば、いただきたいと思う。よろしいか？ ・資料3になる。まず、男女共同参画に関する区民意識調査（仮）ご記入にあたっての注意、と書いてある。この辺はどうか？ これを見て、受け取った側はわかるか？ 封筒の宛名の方、ご本人がやる（ということ）、中村委員、どうか？ こういうのがパッと来た時にやるか？
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・やりますね。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・みなさん、（アンケートが）来てポイという人もいるかもしれないが、なるべく...
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・郵便で来たので、今朝、見たんですよ。それで急いで...
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・大丈夫です、これからいくらでも変えられるので。
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・...やっていたのだが、一応変えてはみるが、そこへ見当つくかどうかは...
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・おそらく回収率を上げたいんですよ。どうですかね？
坂田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・区政モニターの方たちにも配ることをやってもらうんですよね？
下河邊課長	<ul style="list-style-type: none"> ・いえ、こちらは無作為抽出で3,000人の方である。
坂田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・無作為抽出だとちょっと多いかな、と思う。
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・いっぱいあった。同じような問題で。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・同じような調査で、回収率はだいたいどれくらいなのか？
下河邊課長	<ul style="list-style-type: none"> ・他自治体だと、多いところで5割というところもあり、35～40%くらいの想定ではいる。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・4割弱？ このボリューム感でいきなりやった場合、たぶん2～3割。
下河邊委員	<ul style="list-style-type: none"> ・もう少し絞ったほうがよいということですね。ありがとうございます。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・回収率を上げたいのであれば、設問数を少なくすることだし、やはりじっくり聞きたいということであれば、仕方がない。ある程度ボリュームは覚悟で、回収率を何とか。出してない方には督促を？
下河邊課長	<ul style="list-style-type: none"> ・はい、出します。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・趣旨としてはこのような感じで、これが突然みなさんの家庭に来たと仮定していただき、見ていただくと、これは答えづらいとか、あまり意味がないとか、これはこういう言葉に変えた

	<p>ほうがいいとか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Q1 「ワーク・ライフ・バランス」という言葉とその意味をご存知ですか。 Q2 仕事と仕事以外の生活(家庭生活や趣味など個人の生活など)のバランスについて、あなたの現状に近い状態は、次のどれですか。ここでの「仕事」とは収入が得られる仕事を指す ・資料3 - 1、みなさんからいただいた意見をまとめたものがあるが、Q2については、どちらを優先しているかという聞き方ではなく、何対何かという方が適切ではないかという意見ですね。簡単に言うと、両方とも大事という人がたぶんにいて、その比重が何対何くらいという聞き方もありうるだろう。
西村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・どうしても、“どちらかといえば”、いうのを使いたくなるでしょうね。あいまいなところというのは、どうしても出てしまうので、こっちではないし、こっちでもないが、どちらかといえば...という設問になってしまうのだろう。
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ(ような)質問がいっぱいある。答えも。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・どうですか、みなさん、パッと見たとき、これで をつけられるか？現状に近い、とか。これだと、すぐ出て来ないとなると、質問の仕方がわかりにくいのかも。
西村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・答えの順番的なものが気になり...。1 仕事を優先、2 どちらかといえば仕事を優先、その次は、「5 仕事以外の生活が優先」、が来たほうがよいのではないかと。1番は仕事、2はどちらかといえば仕事、3は仕事以外。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・いや、これは同等ですね。どちらともいえない。
西村委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・どちらともいえないという感じで、3番に来てしまっているんですね。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・それが真ん中ですね。仕事と生活が半々みたいな感じ。今度は、仕事以外が来て、どちらかといえば仕事以外、という順番。
西村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・“同等”という表現が...
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・では先に行く。またもし(意見が)あれば。 ・Q4 あなたは、日頃の生活の中で、休んだり、好きなことをしたりする時間のゆとりがありますか。それとも、仕事や家事、学業などに精一杯で時間のゆとりがありませんか。
大竹委員	<ul style="list-style-type: none"> ・“休んだり”というのが、ちょっと引っかかった。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・“休んだり”が要らないということか？
大竹委員	<ul style="list-style-type: none"> ・表現が中途半端かなと思った。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・“休む”という“仕事を休む”というイメージがしますよね。リラックスする、とかゆっくりできるとか、そういう意味ですので。ゆとり、とはそういうことですね。
下河邊課長	<ul style="list-style-type: none"> ・身体を休めたり、とか。リラックスしたり、とか。少し表現を考えたいと思う。なくてもよいですかね。
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちの持ちようなんですよ、これ。リラックスするかどうか、全然感じないか。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば仕事を一生懸命している人でも、リラックスしている人はいる。休みがなくても、それが自分に合っているという。おそらく自分自身で、ゆとりがあると思っているかどうか、気持ちの問題。時間にゆとりがあるかということが、わかればよい。 ・Q5 あなたのご家庭では、日ごろ、以下の(ア)～(サ)のことがらを、主にどなたが行っていますか。 ・これは、すべての家族を想定しなければいけない。シングルの方も答えないとけない。ひとりであれば、自分がやっていることだけですね。
下河邊課長	<ul style="list-style-type: none"> ・区政モニターから引用している。
坂田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・区政モニターだと、収入の話が入っていたが、あえて抜いたのですね？

下河邊課長	・収入を得ている人、ですね。そちらは、少し項目を絞った関係で。
石阪委員長	・選択肢は一緒か？ あなた自身、配偶者、父、母、その他。
下河邊課長	・「収入を得る」というのがあったほうがよいか？
坂田委員	・結局は、仕事をして家庭のことはしない、というのと配偶者がどちらかという家庭のことをやっているという感じになる。
下河邊課長	・あったほうがいいですね。ありがとうございます。
石阪委員長	・「収入を得る」
下河邊課長	・「収入を得る」、わかりました。
石阪委員長	・みなさん、他はどうでしょう？ アイウエオ...と見て行って、この家事は聞いてみたいとか、これは要らないだろうというのが、もしあれば。ほとんど該当しない場合は、回答しないと思うが。子どもがいない場合は、(選択肢)「ケ 保育園...」は選ばないだろうし。該当しないは、「6」があるのですね。
下河邊課長	・この辺、少し絞ったほうがよろしいでしょうか？
石阪委員長	・でもモニター調査よりは、絞っていますね。
下河邊課長	・はい、半分くらいに絞っている。
石阪委員長	・やはり回答する、という意味では、なるべく絞り込んだほうがよいと思うので。今の「収入を得る」というのは...。
下河邊課長	入れたほうがよいですね。
石阪委員長	・Q6 近年、育児や介護と仕事の両立を希望する人が増えています。 男性が、育児や介護と仕事の両立を推進するために、特に必要だと思うことを3つまでお答えください。 ・資料3-1を見ると、「育児・介護休暇等は、女性に限らず、男性も性的マイノリティの方も取得可能であるため、『性を問わない』に修正してはいかがか。選択肢に『育児・介護休業制度を利用しても、職場の同僚や上司などに不利益を与えない人員の補充、支援制度の整備』を加えてはどうか。こういったご意見をいただいている。つまりこれは、「性を問わない」、男性、女性に分けないという。(1)が男性、(2)が女性なんですね。
下河邊課長	・分けないということですね。Q6で1つにする。
石阪委員長	・そうすると、性差というのは出ないですね。介護をする上で何が必要か、という調査になってしまうので。例えばよくあるのは、介護の中心的な担い手は女性である的な価値観は、ここで見ることはできなくなる。
坂田委員	・それは男性の回答が、女性に対してこの(2)で答えることで、見れるということ？
石阪委員長	・例えば男性がこういうことをやるべきだ、女性がこういうことをやるべきだというのは、それぞれ答える側が違うわけだから、その辺をたぶん見たいわけですね。クロスしているわけですね。
坂田委員	・例えば私(男性)が(2)を回答するときに、(2)は女性がやるべきだと思っていること、と。
石阪委員長	・男性が女性にやるべきだと思っていること、ということ。もしこれを一緒にしてしまうと、単純に回答者の男女の違いというのは出るのだが、それだけでいいかということですね。
坂田委員	・どこまで見たいかということですね。
石阪委員長	・おそらく目的によって、質問も変わってくるだろう。この辺、一回事務局の方で、どちらが見たいのか、回答者の性差による違いなのか...。
坂田委員	・最近、国のほうでも、働き方を改革しようと言っている。国の施策みたいな、働き方の対策のようなものが必要だよ、と入れておいたほうが、それがどれくらいの人が注目しているのか、ちょっと気になる。
下河邊課長	・はい、確認します。

坂田委員	・区だとか都だとか国や行政というのが、実際にはいろいろ関わってくるとは思うのだが、どれくらい期待しているのかなと。
石阪委員長	・もうひとつ、選択肢に「...制度を利用しても、不利益を与えないような人員の補充や支援を整備してほしい」と。これでいうとおそらく「その他」に入ってくるかと。もし、それを選ぶのに近いものとなると。
坂田委員	・でも(選択肢の)2番は、不利にならない人事評価...
石阪委員長	・強いて言えばこれか。補充ではないが、これによって不当な評価を受けないということですね。近いといえば近い。
里見係長	・他の自治体でも、ここに書いていただいているような「人員の補充と支援制度の整備」という選択肢は出てくる。あってもいいかなと思ひ、迷った。
石阪委員長	・確かに、これが本音かもしれないですね。だいたいマンパワーが足りなくなるということが、どの組織でもあるので。だから取りづらいつい。そういう意味では、それを保障するような設定を入れてもいいかなと。ちなみにどれくらい逆に をつけるか見てみたい。
里見係長	・では、入れるように。
石阪委員長	・はい。 ・Q7 女性の生き方についてご意見をうかがいます。あなたが女性の場合はあなたご自身が理想とする生き方を、あなたが男性の場合は妻/パートナーとなる女性に送ってほしい生き方の理想として最も近いと思われるものを、ひとつお答えください。 ・よくあるケースは、女性の場合はお答えくださいとか、男性の場合は...、というのではなく一文で。わかりますか、みなさん、パツと？
西村委員	・わかる。
石阪委員長	・結婚せず、仕事を一生続ける。将来パートナーとなる女性ということか。結婚しないということなんですね、同棲状態でずっといるという。 ・結婚するが子どもは持たず、仕事を一生続ける。結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない。結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ。結婚し子どもを持つが、仕事も一生続ける。(選択肢)1番はどういうケースなのか？
西村委員	・男性には関係ない。 をしないのではないかと。女の人のことを思えば(を)するかもしれないが。
下河邊課長	・事実婚が入る。どちらかという女性対象の、というか。もしかしたら、男性は(が)つかないかも知れないですね。
西村委員	・大人になる女性で、これを求める人はそんなにいないと...
坂田委員	・パートナーは要らない、という選択肢はないのか？
石阪委員長	・そういうのはあるだろうなと。男性サイドからすると想像できないが、パートナーは持つ気はないという、独身の方なら。これ、ちょっと答えにくいなと思って。女性が答えるには答えやすいが、男性が答えるときに。
乾委員	・別にしないと、ちょっと...。これで何がわかるのか？
石阪委員長	・おそらく女性が考える生き方と、男性が理想とする生き方の差を出したいと。
乾委員	・むずかしいですね。
石阪委員長	・そうですね。
乾委員	・答えている人は、男性なのか女性なのか...
下河邊課長	・それはクロス集計できるので。
石阪委員長	・それはフェイスシートで男、女とあり、クロスしてやるが、おそらく思惑としては、専業主婦を希望する女性

	<p>のほうが多い、男性は自分の妻に対して働いてもらいたいと思っている人が多い、とかそんな感じですよ ね。専業主婦を求める男性は少ないのだ、というようなデータがほしいのでは。</p>
西村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・Q6を2つに分けるなら、Q7も2つに分けた方がいい。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・上(Q6)の2つが分かれているから。そうなると質問項目を、ここからここまでは、男性のみお答えください、ここからここまでは女性のみお答えください、と分けた方がスムーズに。他にはあるか？ 1つの設問で男性女性で分けて、というような...
下河邊課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ここだけだったと思う。
大竹委員	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほどのQ7で、(選択肢に)「...いったん退職」とあるが、「休職」というのをここに加えて...
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・「休職」というと、同じ仕事に復職する可能性があるということか？
大竹委員	<ul style="list-style-type: none"> ・はい。要するに産休を取って、ずっと仕事を続けたいというのはどこに該当するのか？
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば育児休業を取る場合は、どこに該当するのか？
西村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「5」ではないか？ 辞めなければ。
大竹委員	<ul style="list-style-type: none"> ・産休や育休の利用を考えている、とか説明を入れないと...
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・当てはまらない。ということは「5」ですね、今のところ。「退職」というのは「辞めてしまう」ということだから。
大竹委員	<ul style="list-style-type: none"> ・その説明をちょっとほしいなと思う。もし産休等を活用して1年くらいとか...。・こういう質問が来た時に、私 がその立場で産休や育休を取ろうと思った時にどれに該当するのか...
下河邊課長	<ul style="list-style-type: none"> ・「結婚し子どもを持つが、産休・育休などを利用し、仕事も一生続ける」という...
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・それが「5」のところにカッコして、(育児休業を取得する場合は、ここに該当する)、「5」を選んでください というような形ですね。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・「結婚し子どもを持つが、仕事も一生続ける」という箇所がこれだと結婚前と同じ職場で働くの か、そうでないのかがわからない。仕事を続けたい希望はあるが、退職するか休職するのかがわか りにくい。例えば「結婚し子どもを持つが同じ職場で仕事を続ける」という表記だとわかりやすい。 ・Q7は「男性だけお答えください」「女性だけお答えください」と分けたほうがいい。
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・Q7の選択肢2に「一生」という表記があるが、これは何歳までを指しているのか。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・一応定年までを想定しているのではないか。
下河邊課長	<ul style="list-style-type: none"> ・「定年まで」と改めたいと思う。
鈴木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・回答者が年配の方だと「仕事を一生続ける」という設問の表記が「一生続けた」ということにな るのだろうか。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・Q7の内容が「生き方の理想」なので、年配の方だったら「自分だったらこうしたかった」とい うことを想定して回答することになるのではないか。
坂田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・回答者が年配の場合、自分の子ども世代に対して「今の時代だったらこう生きて行ってほしい」 という理想のもとに回答してもらいたいと思う。
西村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・この設問を読んだ年配の回答者は「自分には関係ない設問だ」と思ってしまうのではないか。「自 分はもう仕事もしてないので」と思われることも予想される
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の社会において一般論として回答を求める、ということにしてはどうだろうか。自分に置き 換えて回答する方が多いかもしれないので「女性はこういう生き方をしてほしい」という回答が導 き出される聞き方のほうがいいのかも。 ・これまでの意見をまとめる 男女を分けたほうがいい

	<p>様々な年代の回答者を想定して一般論として意見を求める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次のQ9にうつる。これは「現在仕事をされているかどうかは別にして、仕事を辞めた経験がありますか」という設問。
中川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほど課長に申し上げたが、女性だとパートナーが転勤すると辞職せざるをえない。これは結構あることだ。
下河邊課長	<ul style="list-style-type: none"> ・4に「転職」とあるがこれを「転職・転勤」としたほうがいいだろうか。
中川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「転職」よりは「転勤」だけにしたほうがいいのではないか。
下河邊課長	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは「転勤」と替えたい。
坂田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・Q9の意図は「仕事を辞めなくなかったが辞めざるを得なかった」という層からの回答を得たいのだと思うが、選択肢が多い気がする。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・1から4までは経験があることで、「ある」と答えた方はQ10へ進み、「ない」と答えた方はQ11へ進む、ということだろう。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・「結婚又は出産・育児のため」という選択肢でその後の設問への進み方が二つに分かれる。この設問からは、「育児のためでも辞めたくはなかった」という層はみえてくるが、「自分の希望で子育てのために退職した」という層はみえてこない。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような理由でということではなく、回答者の意に反してかそうでないかということなので、子育てのために自分の意志で仕事を辞めた、という層はむしろ意に沿っている。ここで聞きたいのは意にそぐわずに退職した層の「退職理由」。となると、Q10、Q11を見直さなければならない。 ・Q10は「あなたの気持ち」なので意にそぐわない離職をしてどうしようと思ったか。Q11はむしろすべての層に聞いてもいいということだろうか。 ・次にQ12「あなたは男女の地位が平等になっていると思いますか」にうつる。選択肢は1が男性優位、5は女性優位、3番は平等。ここに「男女の地位が平等」ではなく「性差別が解消されているかどうか」としたらどうかという指摘がある。すると選択肢も「解消している」「解消していない」「ほとんど解消していない」と変わってくると思う。 ・選択肢のすべてを変えるなら、この設問の表現もいいのではないかと思う。
坂田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「男女平等になっているかどうか」という結果をわかりやすく示せるよう現在の表現なのだと思うが。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・自分もそうなのだろうと思う。1から5まであり、コントラストになっているので、どこまで進んでいるのかがわかるような表現である。ここはこれでいいだろう。 ・他には職場、社会通念・慣習・しきたり、政治の場とある。「政治の場」とは具体的にはどのような場だろうか
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・政界を指している。
下河邊課長	<ul style="list-style-type: none"> ・わかりにくい表現だろうか。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・政治の場における男女比のことも含めているのだろう。この設問で政治や法律の場においては男性のほうが優遇されている、ということに触れるのだろう。実際に女性議員や委員の数は少ない。 ・あと、選択肢の中で「自治会やNPO」とくくられているが、自治会はまたNPOとは違った男性社会という印象がある。「地域活動」となった時に「NPO」だと女性は参加しやすいが、「自治会」となると参加しにくい。

下河邊課長	・「町会や自治会」という表現に変えてはどうだろうか。
石阪委員長	・町会や自治会だと地縁のつながり、と連想される。
事務局	・この設問でいうところの地域活動を指している。そうすると社会通念やしきたりと近い。
下河邊課長	・NPOという自分がやりたいと思う自己実現の場でもあるので、少しこの選択肢の中では合わないかもしれない。そこは考え直してみたいと思う。
石阪委員長	・社会通念と政治の場、という表現は考えてみたい。
坂田委員	・あなたは社会、地域での活動に参加していますか、ということで、これはひとつでも参加していれば、Q15へ進み、参加していなければQ14へ進む。
石阪委員長	・Q15「あなたは、女性の意見が、行政にどの程度反映されていると感じますか」については全員が回答する。「反映されている」と回答した方はQ17へ進み、「あまり反映されていない」と回答した方はQ16へ進む。
坂田委員	・Q17「あなたは、政治・経済地域などの各分野で、女性参加が進み、女性のリーダーが増えると、どのような社会的変化があると思いますか」、この回答の選択肢にはポジティブな要素が多い。
石阪委員長	・選択肢10の「男性のポストが減り、男性が活躍しづらくなる」というのが少しネガティブな要素が入っていて面白いと自分は思う。
鈴木委員	・自分はその選択肢を入れたいと思った。
石阪委員長	・ネガティブな要素の選択肢も入れておいたほうがいいと思う。
事務局	・「家庭や子育てにマイナスな影響が出る」といった内容だろうか。
石阪委員長	・はい。
西村委員	・Q17「あなたは男女平等の社会を実現するためには、学校教育の場では、特にどのようなことに力を入れればよいと思いますか」という設問に対しては、「男女の地位が平等になっている」、「性差別が解消している」に修正してはどうか、という意見が出ている。
鈴木委員	・性差別は学校ではないと思う。男女がはっきりと区別されているから。
石阪委員長	・学校では「男女混合名簿をやめたほうがいい」という意見が出たことがあって、現在は男女別名簿になっている
乾委員	・足立区の学校でか。自分の住んでいる地域は混合名簿である。全国的には一時期混合が流行った時期があったが、足立区はもとに戻したのか。
石阪委員長	・当時も混合名簿は進まなかったのではないか。
石阪委員長	・そうだったのか。
西村委員	・それは現在はない。男子一名、女子一名で構成されている。
鈴木委員	・遊びに関しては、昔より男子も女子も一緒になって遊んでいる。体力の問題や身体の変化などで、高学年になってくると徐々に別々に遊ぶようになる。
石阪委員長	・応援団も昔は男子が中心だった。
石阪委員長	・確かに。そういうこともこの選択肢の中に含まれるといいのではないか。

西村委員	・授業も別な科目はある。中学校の体育や保健体育。
石阪委員長	・技術家庭はどうだろうか。
西村委員	・技術家庭と一緒に授業を行っている。
鈴木委員	・小学校の体育は男女ともに同じ内容だが、水泳など女子、男子とそれぞれ分けて列に並ばせて行っていることもある。
石阪委員長	・小学生だとそんなに体力の差はなさそうに思うが。
中村委員	・そんな場面でも男女が平等ではなくなっているように感じる。
鈴木委員	・4年生から更衣室が欲しいという意見もある。
石阪委員長	・我々の常識では学校は完全に男女平等が浸透していると思っていたが、理屈的に考えて男女を分けている部分はあるのかもしれない。そういうことを踏まえて学校教育の現場ではどういうことに力を入れていけばいいのか、というところである。しかし、率直にわからないというところもあるだろう。
乾委員	・中には性同一性障害の子どももいるかもしれない。
石阪委員長	・そういった配慮も必要になってくる。
西村委員	・あきらかにそうと思われる子どももいる。
乾委員	・いじめられたりはしていないのか。
西村委員	・今のところいじめはない。その子は今始まったわけではなく、小学校の頃からずっとそうであったので、周りの子どもたちが割と理解していた。
石阪委員長	・それではQ19「足立区は、性別に関係なく、家庭・地域・仕事の場でお互いを認め合って、責任を分かち合う、男女共同参画社会の実現を目指しています。そのために、足立区では、どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか」。
	・選択肢の2と10に「ホームヘルパー」が2つある。これは誰を対象としているのか。
下河邊課長	・10は障害のある方で、障害のある子どもも含まれる。
事務局	・そこは少し整理したいと思う。
石阪委員長	・選択肢9の「テレワーク」も高齢者の回答者にはわかりにくいかもしれない。
	・質問自体はいいと思う。
	・「2. 各人の個性や多様な生き方を尊重し、相互理解が進む社会の醸成」にうつる。ここからは個人について聞いていく項目に入る。
	・「Q20 あなたは、結婚していらっしゃいますか(○は1つ)」から始まり、「Q21 あなたと配偶者(またはパートナー)お二人とも働いていますか」と続く。これは「はい」ならQ24へ進み、「いいえ」ならQ22へと進む。これはパートや正社員等の働き方は問わない、という理解でいいだろうか。そしてQ22で「今後の結婚の予定について」聞いている。
坂田委員	・Q21で「パートナーが正規雇用か非正規雇用か」という選択肢はなくもいいのだろうか。
石阪委員長	・そうなるともう少し質問が必要になる。例えば「どんな働き方をしているのか」とか。
坂田委員	・これは回答者自身の属性は必要ではないのか。背景が見えてくるので、回答者の属性も聞いたほうがいいと思う。
	・例えば、自分も働いている、パートナーも働いている、という回答であれば共働きだ、ということがわかると思うのだが。
石阪委員長	・それなら共働きかどちらかだけが働いているのかがわかる。

坂田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・組み合わせもわかる。 ・「Q 2 0 あなたは、結婚していらっしゃいますか」という設問で、選択肢 3、4、5 を選んだ方は次に Q 2 2 へ進むと「今後の結婚の予定についてどのようにお考えですか」という設問にあたる。これは何を意図したものが。
坂田委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・これは未婚の回答者に結婚する意思があるかどうかを聞きたいのではないか。 ・そのとおりだが、意図がわかりづらいかとも思う。 ・「2 結婚しない予定のパートナーがいる」というのも「結婚しない」という意味かと思うので、このあたりはもう少し選択肢の表現を整理して頂きたい。
下河邊課長	<ul style="list-style-type: none"> ・前回、この会議で一度離婚されたり、死別された方がもう一度結婚する意向があるかどうか聞いてみたいという意見があったので、この質問を入れてみた。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・思ったよりも回答の仕方が難しいかと思う。
下河邊課長	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、選択肢の表現を考えてみたいと思う。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・パートナーとどのような状態になりたいか、ということあまり細かく問わなくてもいいかもしれない。「結婚したいかどうか」ではなく「新たなパートナーが欲しいか」といったような聞き方でいいかと思う。 ・Q 2 3 は「現在の予定に関わらず、今後、結婚したいと思いますか。あなたのお気持ちに最も近いものをお答えください」とあるが、2 2 と 2 3 は似通っているので整理していいかと思う。
下河邊課長	<ul style="list-style-type: none"> ・はい。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> そして Q 2 4。「あなたが結婚したいと考えるのはなぜですか。あなたのお気持ちに近いものを 3 つまでお答えください。すでに結婚されている方は、結婚当時のお気持ちをお答えください」とある。結婚したい方は Q 2 4 へ進み、結婚するつもりがない方は Q 2 5 へ進む、ということになる。 ・Q 2 4 の選択肢はこれでいいと思われる。 ・Q 2 5 は「最大の理由がない」という表現が使われているが、これは考え直したほうがよいのではないだろうか。
下河邊課長	<ul style="list-style-type: none"> ・これは表現を考えてみることにする。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・Q 2 5 の選択肢 3「経済力がない」とは回答者自身に、ということか。
下河邊課長	<ul style="list-style-type: none"> ・はい。
大竹委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・選択肢 4 の「子どものことを考えて」というのは、どういう意味だろうか。 ・回答者に子どもがいた場合を想定した選択肢となっている。
遠藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・Q 2 1 で「はい」「いいえ」の回答者がどちらも Q 2 4 に誘導されているが、これはなぜか。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・Q 2 4 は前の質問で「結婚したい」と考える方は Q 2 4 に進む、という風に誘導されなくてはいけない。
遠藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・これは Q 2 1 はいらないのではないか。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・そのとおりだと思う。Q 2 1 から誘導されるのではなく、Q 2 2、2 3 の回答者が Q 2 4 へ誘導されていくようにしたほうがいいだろう。 ・「結婚の予定がない」「結婚するつもりがない」という回答者が次の Q 2 5 へ進む。 ・Q 2 6 は「あなたは、これまでに同性愛者（レズビアン/ゲイ）や両性愛者（バイ・セクシュアル）、性同一性障害者（生まれたときの身体の性と自覚する心の性が一致しない人）など、いわゆる性的マイノリティ（性的少数者）と言われる人についての話題や記事を聞いたり見たりしたこと

	<p>がありますか。」という設問だが、委員の皆さんはここまでで、どんな方たちについて言っているのかはご理解いただいているだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さらに「ある場合は、どこで聞いたり見たりしたのかをお答えください」と続くが「どこで聞いたり見たり」の後に「直接接したり」を追加したほうがいいかと思う。 ・そしてQ 2 7「同性どうしの結婚を法律で認めるかどうかということについては、さまざまな意見があります。次の中で、あなたのお気持ちに近いものをお答えください」 ・選択肢5の表現はどうだろうか。
西村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・これは年配の方でこう言う方がいる。子どもを増やすことにつながらないから良くない、と。年配の政治家の方でこんなふうと言う方もいる。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・選択肢のうち、1～4までは肯定的、5～6は否定的な選択肢だ。 ・選択肢7の「この中にあてはまるものはない」というのは8「その他」と同じではないだろうか。
大竹委員	<ul style="list-style-type: none"> ・そうだと思う。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば選択肢1「当人が愛し合っていればよい」を「よいので認める」というように1～3は「～だから認める」として、否定的な選択肢に対しては「～だから認めない」としてはどうだろうか。
大竹委員	<ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすいと思う。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・それではQ 2 8「あなたは、現在の日本は、性的マイノリティの方にとって暮らしやすい社会だと思いますか」ときて、「暮らしにくい」と回答した方はQ 2 9「性的マイノリティの方が、現在の日本に暮らしにくさを感じるとしたら、どういう点があると思いますか。次の中であてはまるものがありましたら、すべてお答えください」へと進む。Q 2 9に関しては何も意見はないだろうか。それではQ 3 0へ進む。 ・Q 3 0「男女の性別によって引き起こる体調の変化や健康問題について、互いに理解を深めることは大切なことです。あなたは、女性の生涯を通じた健康を考えるうえで、どのようなことが大切だと思いますか。次の中から3つまでお答えください」。この設問からLGBTではなくて、女性に対する設問になっている。 ・この設問は男性も回答するという点でよろしいだろうか。男性の委員はこの選択肢をみて、どうだろう。
西村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・男性からすると選択肢がわかりにくい気がする。どれも大切そうな気はするが。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・男性からみるとなじみのない言葉がならんでいるのかもしれない。
西村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の立場だと家内の健康状況を考えて、選択肢6「婦人科系疾患（子宮がん・乳がんなど）の検診受診の啓発」を選ぶのかなと思う。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・はい。この設問に関しては男性が回答するといっても、パートナーのことを考えれば回答できそうである。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは『3．安全・安心な暮らしの実現』へうつる。Q 3 1「あなたは、次のような行為が配偶者／パートナーや交際相手との間で行われた場合、それを「暴力」だと思いますか。暴力にあたると思うものをお答えください。」これに関してのご意見をいただきたい。
遠藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・選択肢3「気に入らないと物にあたる（投げる、蹴（け）飛ばすなど）」と、選択肢6「殴る、蹴る、髪を引っ張る、首を絞める」は同じことにはならないのだろうか。
大竹委員	<ul style="list-style-type: none"> ・直接暴力をふるうのが選択肢6で、直接ではなくものにあたるのが選択肢3ということだろうか。
下河邊課長	<ul style="list-style-type: none"> ・この設問は区政モニター用の設問と連動している。

石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは次の設問へうつる。Q 3 2 「配偶者／パートナーや交際相手による暴力をドメスティック・バイオレンス（DV）と言います。もし、あなた自身やあなたの家族、友人がDV被害に遭った場合は、どこに相談しますか。主な相談先を2つまでお答えください」 ・これは問題ないように思う。いいのではないか。 ・次にフェースシートへうつる。 ・性別欄に男性・女性・その他とある。
下河邊課長	<ul style="list-style-type: none"> ・本当は回答者が女性か男性かを書いていただこうかと思ったが、委託業者から書かない回答者もいると聞いたので、性的マイノリティへの配慮もあり、加えてみた。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・少しわかりにくいと思うのが、体と心が一致しない方の場合はどちらの性を書くのか、ということだが、これは自分が思っているほうの性を書けばいいということか。
大竹委員	<ul style="list-style-type: none"> ・それも説明を入れた方がいいのではないか
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・どういう状況が「その他」にあたるのかは説明を入れた方がいいのかもれない。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・では「自認している性はどちらか」という聞き方にしてはどうだろうか。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・それがいいかと思う。 ・選択肢が年齢・職業、と続くが年配の方でも気にせず書けるようになっていていいと思う。 ・F 6 「お宅の生活の程度は、世間一般からみて、どうですか」という設問は回答者自身を感じているものでいいのか。
大竹委員	<ul style="list-style-type: none"> ・例えばお金はうんとあってもメンタル的に弱くなっている方は「下」と回答したくなるかなと思ったが経済面での「下」という意味でよろしいだろうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の程度なので、心の内面をうかがうものではない。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・こういう回答では「中の下」が多い気がする。 ・次にF 8 「お子さんは何人いらっしゃいますか。同居・別居は問いません。亡くなった方は除いてお答えください」。これは年配の方でも回答していいものということでもよろしいか。例えば離婚して、今ひとりである方でもご自身の子であればいいということでもよいだろうか。 ・F 9 「あなたのお子様は、以下のどちらにあてはまりますか。すべてのお子様についてお答えください」。1 「乳児（0歳）」・2 「1～3歳」・3 「4歳以上で小学校入前」・4 「小学生」・5 「中学生」・6 「高校生」とあり、選択肢が9まで続く。
坂田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生が2人いたら はどうつけるのか
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば小学生と中学生ならそれぞれに で、小学生が2人なら は小学生の欄にひとつでいいのではないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・はい
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・F 1 0 「あなた自身の昨年1年の収入はおよそどのくらいでしたか。ボーナス・アルバイトなどを含めて税込みでおしらせください」。昨年ということは1月から12月ということでもよいだろうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・はい。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・これは何月から何月、と書いておいたほうがいいのかもしい。「2015年の1月から12月の収入を合計してください」という表記のしかたのほうがいいのかもしい。
遠藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・Q 3 2 の選択肢に国がないので、入れたほうがいいのか。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・なるほど、確かに国の相談機関は含まれていないので、これは入れたほうがいい。

下河邊課長	・ N P Oもないが。
石阪委員長	・ N P Oも加えておくよう考えていく。
遠藤委員	・ 「その他」という選択肢があるので、そこに含まれるという考え方もできる。
下河邊課長	・ 最後に「ご協力ありがとうございました」と加えるといいと思う。
石阪委員長	・ はい、ありがとうございます。
	・ 区民意識調査はこれで確認が終了した。文言で修正、追加したほうがよいものは引き続き事務局の方をお願いしたい。
	・ 続いて、大学生の意識調査の内容確認を行う。
	・ 大学生調査は区民向けと重複しているところはあまりなさそうだ。
事務局	・ はい。
石阪委員長	・ 重複している箇所は省かせていただいて、D Vのところは重複しているので、これ以外をみていきたいと思う。
	・ まずはQ 1「ワーク・ライフ・バランス」という言葉とその意味をご存知ですか」と始まって、Q 2「あなたは、今年の4月以降、アルバイトをしていますか」という設問に続く。これは事実なので、わかりやすい。
坂田委員	・ 選択肢5「アルバイトをしなかった」とあるが、4月以前はやっていたという回答者の場合、ここにあてはまるのか。
事務局	・ はい
石阪委員長	・ 4月以前にアルバイトをしていた場合を考えて選択肢5は「4月以前はアルバイトをやっていた」としたほうがいいたろうか。
坂田委員	・ 4月以降、としたことにこだわりはあるのか。
大竹委員	・ 新しく大学生になった人達に向けて、という理由ではないのか。
坂田委員	・ なるほど。
事務局	・ 4月で生活が変わる方が多いのではないかと、という考え方からきている。
坂田委員	・ アルバイトをしているのか、していないのか、したことはあるのか、という聞き方は少しあいまいな気がする。
事務局	・ 「現在アルバイトをしているか」という聞き方をのほうがいいたろうか。
石阪委員長	・ で、「一か月あたり何時間しているか」という平均をたずねている。
	・ Q 5では「現時点では、大学卒業後に、どのような進路を予定していますか」とある。これは就職とあるから「予定」というより「希望」としたほうがいいかもしれない。
下河邊課長	・ そのとおりであると思う。修正するようにしていく。
石阪委員長	・ 続いてQ 6があり、次にQ 7「大学卒業後の女性の働き方として、あなたにとって望ましいと思う形はどのようなものですか。あなたが女性の場合はあなたご自身が理想とする働き方を、あなたが男性の場合は妻／パートナーとなる女性に選んでほしい働き方の理想として最も近いと思われるものを、次の中からひとつお選びください」がある。
	・ Q 7に関してはさきほども上がったので、事務局にはそれをお願いする。
	・ Q 8「就職する企業を選ぶ際に、重要だと思うことは何ですか。特に必要だと思うことを3つまでお答えください。これは一般論なのか自分自身が就職する際に重要視することか。
事務局	・ 「あなたが」という主旨の設問だと思う。

石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは「就職希望がない」「大学院へ行きたい」という回答者はこの設問には回答しなくてよいということでもいいだろうか。 ・Q 8には「就職希望の方におうかがいします」という一文を入れたほうがいいのかもしいかな。
坂田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・最終的に就職を希望するのであれば、いいのではないかな。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・それはそうかな。回答者は、将来就職する企業を選ぶ際に、という前提で回答するかもしれない。 ・選択肢に「家から近い」というのを入れてもいいかもしれない。 ・学生の中では「企業規模」や「企業知名度」を重視する者もいる。
坂田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「責任が軽い」というのも選択肢としてはあるかもしれない。責任は最初はどんな会社も軽いとは思いますが。 ・あと設問8と9の間にもし入れられるのであれば、「どこまで出世したいか」という内容の設問を入れてはどうだろうか。「社長代理」、「取締役」とか。「ずっと平社員でいい」とか。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・それは出世意欲ということだろうか。
坂田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・はい。おそらくだが女性だと「そんなに出世しなくてもいい」という回答があるのではないかな。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめると、Q 8は設問の冒頭に「あなたが就職先を選ぶ際に」という一文を入れる、Q 9との間に「企業に入った場合、自分がどのようなポジションを目指すか」という設問を追加することになるかと思う。そうすると他の設問への誘導が少しずれるので、そこを修正していくことになる。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・よろしくお祈いします。 ・Q 9「あなたは、日ごろ、各種ボランティアやNPO、自治会・町内会など地域の活動に、参加していますか」という設問を受けて、Q10「あなたが参加できていない/参加するつもりがないのはなぜですか」に続く。そしてQ 11～21は区民意識調査と同じである。 ・Q 22「あなたには、現在、恋人として交際している人がいますか。次の中で、あなたにあてはまるものを1つお答えください。今の大学生には「恋人」という言葉は耳なじみがないかもしれない。「彼女」「彼氏」と言っている大学生がほとんど。
大竹委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「パートナー」という言い方ではいけないだろうか。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・「パートナー」も大学生にはぴんとこないかもしれない。同棲しているイメージがある。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・「恋人(彼氏・彼女)」としてはどうだろうか。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・それがいいと思う。 ・続くQ 23では現在の配偶者・恋人について聞いている。リアルタイムの状況について聞くということでもいいだろうか。
下河邊課長	<ul style="list-style-type: none"> ・委員からQ 23は必要かというご意見も頂いているが。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生だと学校がほとんどかとは思ふ。
下河邊課長	<ul style="list-style-type: none"> ・聞いてみて、出会いの場が少ないということになると、そういうことを考えなくてはならなくなってくるかと思ふ。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは聞いてみてもいいかと思ふ。
下河邊課長	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは一応聞いてみるということだ。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・Q 24「あなたご自身の結婚について、どのように考えていますか。あなたのお気持ちに最も近いものをお答えください。選択肢2の「すぐにでも結婚したい」と選択肢3の「2、3年以内に結婚したい」はどういう違いがあるのだろうか。「2、3年」でも十分早いような気がするが。学生にとってみると「2、3年」はすぐに、という気がしてしまうのではないかな。20歳の学生に聞

	<p>いてみたら「23歳で結婚」とは回答しないと思われる。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ Q 2 4 は選択肢の表記をもっとシンプルにして「 年以内」という聞き方はしなくてもいいのかもしれない。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ これは現在の恋人がいたとして、その恋人と結婚したいというわけではないのか。
下河邊課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ そこに限っているわけではない。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ Q 2 6 「あなたが、結婚するつもりがないのはなぜですか。あてはまるものを3つまでお選びください」。
西村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「離婚が不安である」という選択肢 8 は面白い。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 離婚するほうが損するケースが多い、と若い世代は思うらしい。離婚するくらいなら最初から結婚しない、という考え方になる方もいるようだ。 ・ Q 2 7 「あなたが子供を持つとしたら、理想的な時期はいつ頃ですか。あなたのお気持ちに最も近いものをお答えください。すでにお子さんがいらっしゃる場合も、あなたにとって理想だと思っていた時期をお答えください」。 ・ 選択肢 3 「結婚する・しないにかかわらず、できるだけ若いうちに子供を持つ」というのは未婚でも子どもは持ちたいという意味だろうか。
大竹委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最近子どもだけ欲しい、という声も聞く。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ それだったら「結婚はしないで子どもだけ欲しい」という表記のほうがわかりやすいかと思う。
坂田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 選択肢 1、2 の「結婚してから、すぐ子供を持つ」と「結婚して、ある程度期間をおいてから子供持つ」というのは相対的なもので、例えば 3 5 歳で結婚して 4 0 歳までに子どもが欲しいという考え方に比べると、選択肢 3、4 は「絶対に子どもが欲しい」という絶対的な考え方だ。 ・ それだったら若いうちに子どもを持ちたいか、ある程度年齢を経てから子どもを持ちたいか、という聞き方のほうがいいのではないか。
下河邊課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ それでは、そこは表現をもう少し考え直すことにする。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ Q 2 8 「あなたが、子供は持たないと思うのはなぜですか。あなたのお気持ちに近いものをすべてお選びください」。これは特にご意見はないだろうか。 ・ 次に Q 2 9 「現在や将来の「子育て」について考えると、不安に思うことはありますか。この中からあてはまるものをいくつかでもお答えください」。
乾委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 選択肢 2 「仕事との両立」、選択肢 6 「保育園などの保育サービスの利用」はイメージしにくくないだろうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「保育サービスの利用」という表現が学生にはイメージしにくく難しいかもしれない。ここは考え直してみたいと思う。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ Q 3 0 ~ 3 2 は意識調査と同じである。
下河邊課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ Q 3 3 で新たな設問が入ってくるようになっている。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ Q 3 3 「あなたが、その行為を受けたのはいつですか。あてはまるものをすべてお答えください」。選択肢が「小学 4 年生」からなのは DV が「交際相手」からであって「親」からではないから、ということでもいいだろうか。「以下」という選択肢はいらないだろうか。小学校 3 年生くらいでつきあっている子どもはいないだろうか。
鈴木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学生だとつきあっているという感覚ではないかもしれない。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ DV というよりかは感覚的には「男の子から叩かれた」とか。「DV」とするには難しいかもし

<p>中村委員 石阪委員長 下河邊課長 事務局 石阪委員長</p>	<p>れない。ましてや小学校4年でつきあってる、となると難しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女の子が男の子をいじめてる、ということもある。 ・それかもう「小学生」「中学生」「高校生」でくくってもいいかもしれない。 ・小学生に関しては「小学生」で括ってもいいだろうか。 ・それならば「大学生」もまとめてもいいかと思われる。 ・あとはすべて意識調査と同じ設問である。 ・ここまでの意見をもとにまた、事務局で精査していただきたいと思う。 ・それではみなさん、今日は時間外までお疲れさまでした。 <p>～～次回の委員会を10月25日火曜日13時から15時まで、と日程確認し、終了～～</p>
---	---